

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月17日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3770102691
法人名	四国産業株式会社
事業所名	リーラの家“しこく”
所在地	香川県高松市福岡町2丁目11番29号 (電話)087-826-8600

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成20年2月4日	評価決定日	平成20年3月17日

## 【情報提供票より】(19年1月13日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成15年11月10日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	8人	常勤 7人, 非常勤 1人, 常勤換算	7.5人

### (2) 建物概要

建物構造	木造 2階建ての1階～2階部分
------	--------------------

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	58,000～60,000円	その他の経費(月額)	12,000円
敷金	有( ) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( ) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	300円	昼食 300円
	夕食	500円	おやつ 100円
	または1日当たり 1,200円		

### (4) 利用者の概要(2月4日現在)

利用者人数	8名	男性	3名	女性	5名
要介護1	0円	要介護2	2名		
要介護3	4名	要介護4	2名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 87.3歳	最低	83歳	最高	92歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	クワヤ病院 三好歯科医院
---------	--------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「リーラの家しこく」は住宅街にあり、マーケットや県立体育館などの公共施設が近くにある等、環境に恵まれている。木造2階建てのモダンな建物で、フラワーボードの表札を掲げ、家庭的な雰囲気で近隣にとけ込んでいる。玄関口は段差なく出入りが容易であり、ホーム内は落ちついた色調で整備されている。フロアは暖房され暖かく、隣接して厨房があり家庭的な雰囲気である。利用者が朝食にパンかご飯を選択でき、本人の習慣や好みを大切に「いつも自分らしく」の実践に取り組んでいる。利用者の状態は個別ファイル等に詳細に記載し、支援に活用している。「地域の人達が気軽に集い、歌声がいつも聞こえるような和やかで楽しいホームにしたい」と語る管理者は、明るく前向きである。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	「あなたらしく生きる」を念頭に、地域に密着したホームを目指して、チームで改善課題に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員は評価の意義を理解し、改善課題についてカンファレンスして、管理者や計画作成担当者を中心にチームで取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	定期的に会議を開催し、行事報告や予定などの情報交換や、災害時の協力体制の確立などを討議し、ケアサービスに活かせるように取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ホーム内に意見箱を設け、家族の面会時に情報提供や意見、苦情などを聞いてチームで検討し、運営に反映するように努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	夏祭りなどの地域の行事や清掃に参加したり、散歩時に挨拶や声かけを積極的に行うなど、地域住民との交流に努めている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「いつまでもあなたらしく生きる楽しさを」を運営理念に、利用者が地域の中で、その人らしく過ごしていけるように努めている。		
		○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念をホーム内に分かりやすく掲示し、職員はミーティングの時などに理念を念頭に話し合い、日常の支援に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	外出時などには、近隣の人達に挨拶や言葉かけを積極的に行い、夏祭りや防災訓練、町内の清掃当番に参加する等、地域との交流に努めている。	○	介護予防教室やコーラスを楽しむ等、さらに地域住民との交流に取り組むことを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価結果はホーム内に掲示し、家族や職員で共有して、ケアサービスの質の向上に繋げるよう努めている。	○	さらに、評価の意義や目的を全職員が理解して、具体的に検討し、改善に取り組むことが望まれる。
		○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を実施し、情報交換して、サービスの資質向上に活かすよう努めている。	○	認知症やホーム機能の理解を深めるよう勉強会を開く等、さらに地域に密着したケアサービスに取り組むことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者や地域包括支援センター職員が運営推進会議に参加する等、情報交換し連携するよう努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「リーラ便り」の発行や、家族の面会時に健康状態等伝えるようにしている。また、利用者の状況の変化時には、家族等に迅速に報告するように努めている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内に意見箱を設置しており、運営推進会議への参加や面会時に家族との会話から、意見や要望を聞きカンファレンスし、運営に反映するように努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職は、できるだけ最小限にするように努めている。	○	異動があった時はホーム便りに掲載しているが、面会時に紹介する等、できるだけ速やかに家族に伝えることが望ましい。
にゆうきゅ					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は資格習得や各種研修会への参加に理解があり、日程の調整などに協力的である。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の研修会等で知り合った仲間と交流して、資質の向上に努めている。	○	グループホーム協議会に参加したり、各種研修会等で交流し、情報交換して、お互いに資質向上に向けた取り組みに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の際には本人や家族と十分に話し合い、家庭訪問をして状況把握に努め、その人らしく過ごせるように取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者個々の体験談や暮らしの知恵などを聞き、喜怒哀楽を共にして、信頼関係を深めるように努めている。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の現状や日常の会話から、意向や希望を把握するように努め、ミーティングで検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の状態は、日誌や個人ファイルに詳細に記載し、チームで話し合い、介護計画を作成している。	○	さらに、本人の残存機能の活用等、課題と目標をチームでカンファレンスして、介護計画を作成することを期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に介護計画を作成している。また、心身の状態の変化に伴い、チームで話し合い、計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	定期的にモニタリングして、本人や家族の状況や要望に応じて話し合い、ケアに努めている。	○	過去にとらわれず、本人の生きがいにつなげる楽しみを見出して日常生活が過ごせるよう、さらなる取り組みを期待したい。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向によって、かかりつけ医の受診を支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化したり、重度化の可能性が生じた時には、本人や家族と話し合い、方針を共有して支援している。	○	入居時など、早い段階で本人や家族と十分に話し合い、重度化した時の方針を明確にして、同意書を交わす等、今後の取り組みに期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳やプライバシーを損ねないよう、言葉かけや対応に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事のメニューや更衣などは、できる限り、本人の習慣や希望に沿って支援するように努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片づけなど、可能な範囲で手伝ってもらったり、職員と一緒に食事をしながら、利用者寄り添ってケアしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の予定は決めているが、本人の体調や気分によって、柔軟に対応するようにしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	心身の状態に応じて家事や菜園などの活動をしてもらったり、昔話から生活の知恵を活かす場面を設けるなどの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩やドライブ、買い物など、戸外に出かけるように積極的に声かけし、外出するように努めている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日常は、玄関などに鍵をかけないようにしているが、利用者の状況によって施錠することもあり、その場合は、家族の了解を得るようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非常時の連絡網を作成し、地域の防災訓練に参加して、地域の協力が得られるように努めている。	○	さらに、地域住民とコミュニケーションを図り、夜間の災害対策等を具体的に検討することが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量をチェックして、栄養の確保に配慮している。	○	食事摂取の困難な利用者の調理方法や、食器は食べやすいものを考慮するなど、今後の取り組みに期待したい。
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間に隣接して厨房があり、床暖房がされ、居心地のよいソファーが置かれている。また、利用者との共同制作の季節の壁飾りや生け花を生けるなど、家庭的な雰囲気づくりに工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族に相談して、家具や調度品など、馴染みのある物を持ってきてもらったり、写真を飾るなど、その人らしい居室になるように配慮している。		